

飼料用トウモロコシ奨励品種「34B39(パイオニア115日)」
「SH4681(スノーデント115)」

畜産試験場

1 取り上げた理由

市販されている飼料用トウモロコシの中から、畜産試験場において検定を行った結果、成績優秀であった品種を奨励品種としたので普及情報とする。

2 普及情報

1)「34B39(パイオニア115日)」

- ・当試験場におけるRM(出芽から黄熟期までの日数)は119日となった(メーカーRMは115日)(表1)。早晚生は中生である。
- ・初期生育は標準品種「セシリア(パイオニア115日)」並みである(表1)。
- ・標準品種と比較して稈長は長いものの、着雌穂高/稈長の比が小さく、耐倒伏性が優れる(表1)。
- ・標準品種と比較してやや折損が多い(表2)。
- ・虫害(アワノメイガ)が標準品種よりやや多い(表2)。
- ・乾物収量が高い(表3)。

2)「SH4681(スノーデント115)」

- ・当試験場におけるRM(出芽から黄熟期までの日数)は119日となった(メーカーRMは115日)(表1)。早晚生は中生である。
- ・初期生育は標準品種「セシリア(パイオニア115日)」に優る(表1)。
- ・標準品種と比較して稈長は長く、耐倒伏性はやや劣る(表1)。
- ・標準品種と比較して折損が少ない(表1)。
- ・標準品種と比べ、すす紋病の抵抗性が強い(表2)。
- ・乾物収量が高い(表3)。

3 利活用の留意点

密植栽培により、すす紋病、紋枯病の発生増加や稈径が細くなることにより倒伏の増加につながるため、栽植密度は10a当たり7,000本前後とする。

(問い合わせ先：畜産試験場 草地飼料部 電話0229-72-3101)

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間

飼料作物・牧草適応品種の選定(3)飼料用トウモロコシ(昭和57年度～)

2) 参考データ

表1 生育特性

品種名	発芽良否 (1~9)	初期生育 (1~9)	稈長 (cm)	着雌穂高 (cm)	着雌穂高 /稈長	倒伏割合 (%)	折損割合 (%)	RM (日)
SH4681(スノーデント115)	7.9	6.5	252	120	0.476	9.2	8.4	119
34B39(パイオニア115日)	7.2	4.7	263	123	0.468	1.8	16.4	119
セシリア(パイオニア115日)	7.3	5.0	233	119	0.511	4.5	20.4	119

(注1) 出芽の良否, 初期生育: 極良を9, 中を5, 極不良を1とする評価法。
平成17~19年の平均値。

表2 病害程度

品種名	ごま葉枯病 (1~9)	すす紋病 (1~9)	黒穂病 (%)	根腐病 (%)	紋枯病 (%)	虫害 (%)
SH4681(スノーデント115)	1.9	2.1	0.0	2.0	3.5	26.3
34B39(パイオニア115日)	2.1	1.7	0.0	2.9	1.7	37.8
セシリア(パイオニア115日)	2.3	4.6	0.0	3.4	2.1	22.6

(注1) 被害程度と被害面積に応じて無を1, 甚を9とする(ごま葉枯病・すす紋病)。

(注2) 罹病個体の全個体に対する割合(根腐病・紋枯病・黒穂病・虫害)。

平成17~19年の平均値。

表3 収量性

品種名	乾物収量(kg/10a)			乾物雌穂重 割合(%)	TDN収量 (kg/10a)
	茎葉	雌穂	総重		
34B39(パイオニア115日)	1,121(139)	1,121(116)	2,237(126)	50.2	1,587(125)
SH4681(スノーデント115)	1,046(129)	1,162(120)	2,194(123)	53.3	1,560(123)
セシリア(パイオニア115日)	809(100)	970(100)	1,780(100)	54.9	1,265(100)

(注) 平成17~19年の平均値

乾物収量及びTDN収量の欄の()内は, 標準品種を100とした場合の比。

推定TDN収量 = 乾物茎葉重 * 0.56 + 乾物雌穂重 * 0.82 (宮畜方式)

3) 発表論文等

なし